

2016年（平成28年） 9月30日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

9/15～9/21のNYMEX・WTIIは、43.03～45.34ドルの範囲で、値上がり気味に推移した。

9月22日は、前日のEIA週報で米国在庫が原油・ガソリンとも減少したとの発表の流れを引き継いで、国内需給の引き締め感から、11月限の終値は前日比0.98ドル高の46.32ドルであった。

週末23日は、26～28日の産油国会合を前に、サウジがイラン生産量の現状凍結を条件に今年1月の生産水準での生産凍結を提案したとの報道で朝方一時上昇したが、イラン当局者のイラン生産量は制裁前水準に達していないとの発言で増産凍結決議は困難との見方が拡大、大幅反落した。また、ペカーヒューズ社の米国稼働リグ数の前週比2基増加(418基)の報告も供給過剰感を広げた。11月限は前日比1.84安の44.48ドルで終了した。

週明け26日は、この日からの産油国会合をめぐり神経質な展開となったが、開催国アルジェリアのエネルギー相の何も決めずに閉会するつもりはないとの25日の発言への期待感や米大統領候補のTV討論を前にした先行き不安によるドル安、持ち高調整による買い戻し等もあり、大幅反発した。11月限の終値は前日比1.45ドル高の45.93ドルとなった。

27日は、イランのザンギャネ石油相の生産調整への消極発言やロシアのノバクエネルギー相の28日の協議の欠席予定の報道等で、産油国会合での合意見送り観測が強くなったことから、反落した。11月限は1.26ドル安の44.67ドルだった。

28日は、アルジェリアの産油国会合がOPEC臨時総会に移行、3,250～3,300万BDの生産目標が決議されたこと、EIA

の米国週間在庫統計で、予想に反し原油在庫が減少したことから、需給均衡への期待感により、急反発した。11月限は前日比2.38ドル高の47.05ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産パイ原油/東京市場(11月渡し)は、前週42.30～43.30ドルの狭い範囲で推移した。23日は44.00ドル、26日は42.90ドル、27日は43.50ドル、28日は42.50ドルで推移した。

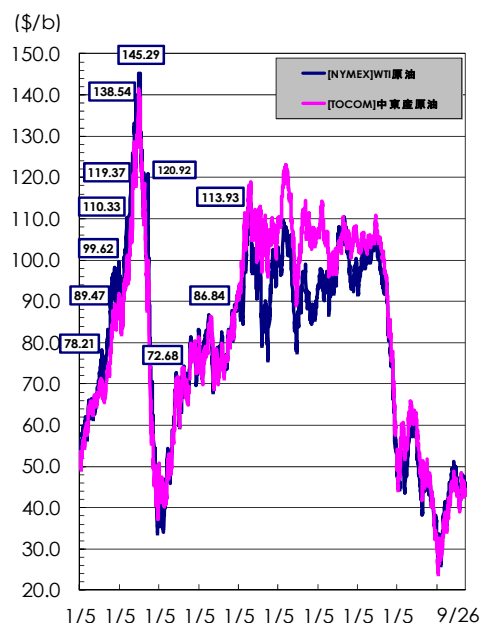
為替は、前週101.82～102.50円の範囲で円高方向に推移した。23日は101.06円、26日は100.75円、27日は100.32円、28日は100.55円と一段と円高に推移した。

財務省が29日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、9月上旬の原油輸入平均CIF価格は、28,690円/klとなり、前旬を174円下回った。ドル建てでは45.41ドルで前旬比0.17ドル高。為替レートは1ドル/100.44円。

主要元売会社の10月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きだった。原油価格は値下がりし、為替レートは小幅な円高で、原油調達コストは値下がりだった。

そのような中で、9月26日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値下がりの122.8円、軽油も0.1円値下がりの102.4円、灯油も0.1円値下がりの63.8円だった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油は6週振りの値下がり、灯油も6週振りの値下がりだった。この週(9月第4週)の原油コストは値下がり、元売の卸価格は多数が据え置きだったが、1社のみ1円値下げした。

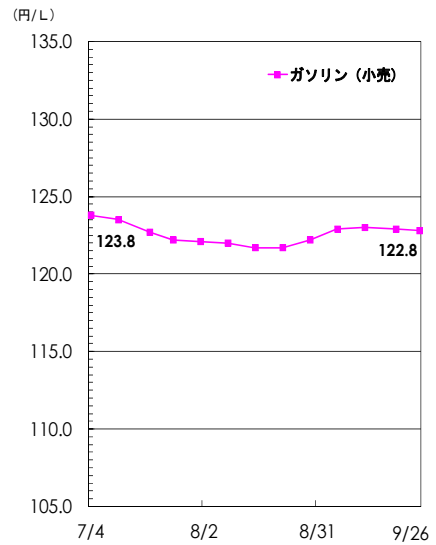
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/18 ~ 9/24	3,423 ▼ -57	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	80.6 ▼ -1.3	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/24	14,229 ▼ -584	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/26	43.72 ▲ 0.75	▼ -2.6
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/26	45.93 ▲ 2.63	▲ 1.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月上旬	45.41 ▲ 0.17	▼ -5.83
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	28,690 ▼ -174	▼ -10,305
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	100.44 ▲ 1.00	▲ 20.54
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/26	101.75 ▲ 1.20	▲ 19.65



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/18 ~ 9/24	906 ▼ -78	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	954 ▼ -2	▼ -	
	輸出	"	48 ▲ 29	▼ -	
	在庫	9/24	1,608 ▼ -96	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/20 ~ 9/26	41.8 ▼ -0.5	▼ -9.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/20 ~ 9/26	40.2 ▼ -1.1	▼ -8.7
		(TOCOM/中部)	9/26	40.0 ▼ -1.9	▼ -8.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/26	122.8 ▼ -0.1	▼ -12.1	

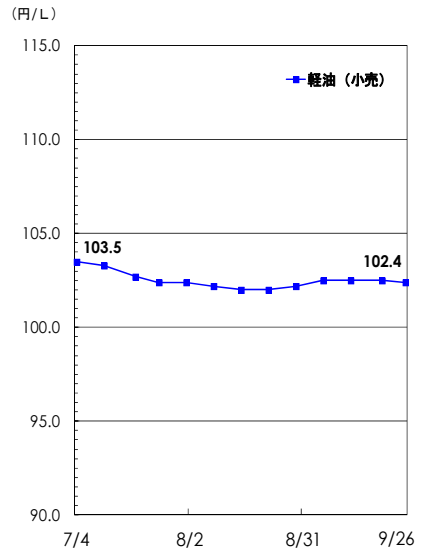
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

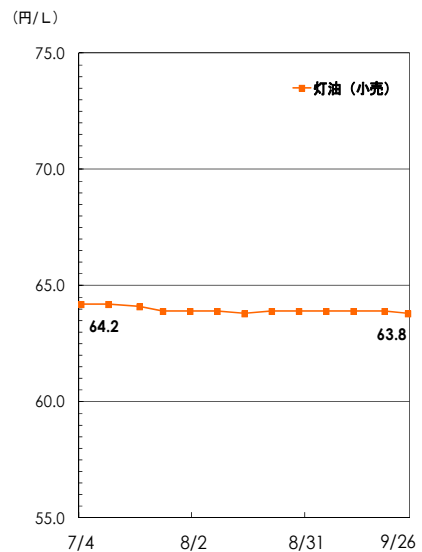
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/18 ~ 9/24	684 ▼ -235	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	620 ▼ -72	▲ -	
	輸出	"	268 ▲ 50	▲ -	
	在庫	9/24	1,588 ▼ -205	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/20 ~ 9/26	38.2 ▼ -0.4	▼ -4.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/20 ~ 9/26	38.5 ▼ -0.5	▼ -7.0
		(TOCOM/中部)	9/26	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/26	102.4 ▼ -0.1	▼ -10.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/18 ~ 9/24	212 ▲ 45	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	137 ▲ 38	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	▼ -	
	在庫	9/24	2,855 ▲ 76	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/20 ~ 9/26	36.4 ▼ -0.4	▼ -11.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/20 ~ 9/26	38.9 ▲ 0.1	▼ -9.9
		(TOCOM/中部)	9/26	38.9 ▲ 0.9	▼ -10.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/26	63.8 ▼ -0.1	▼ -16.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

28日のNYMEX市場のWTI原油は、合意は困難と見られたアルジェリアでの産油国会合が一転、OPEC臨時総会に移行され、生産目標3,250~3,300万BDを目指すこと(8月生産実績:3,324万BD)、市場安定のためのハイレベル委員会設置等が決議されたことから、急反発し、中心限月の終値ベースで8日(47.62ドル)以来3週間振りの高値となった。米国エネルギー情報局(EIA)発表の週間在庫統計で、ガソリン在庫が予想に反し200万B増加したものの、原油在庫は市場予想(300万B増)に反し190万B減少したことも、好感された。11月限の終値は前日比2.38ドル高の47.05ド

ル、12月限の終値は前日比2.41ドル高の1バレル47.65ドルだった。

EIAによると9月26日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比0.1セント値下がりの1ガロン2.224ドル(59.7円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.7セント値下がりの2.382ドル(63.9円/ℓ)。ガソリンは2週振りの値下がり、軽油は4週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、9月18日~24日に休止したトッパー能力は、35.3万バレル/日と前週に比べて1.1万バレル減少。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は342.3万klと、前週に比べ5.7万kl減少。前年に対しては4.1万klの減少。トッパー稼働率は80.6%と前週に対して1.3ポイントの減少、前年に対しては1.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油のみが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/7.9%減、ジェット/16.7%減、灯油/27.1%増、軽油/25.6%減、A重油/15.2%減、C重油/2.3%減。今週のC重油の輸入は2.7万kl(前週比2.0万kl減)。軽油の輸出は26.8万kl(前週比5.0万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比では灯油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリンのみが減少し、その他の油種で増加した。原油価格が値下がりし、小売価格は2週連続で値下がりとなったが、ガソリンの出荷は95.4万kl(対前週0.2%減)と4週連続で前週比で減少、2週振りに前年比で減少となり、3週連続で100万klを割った。

ジェット10.0万kl(対前週36.4%減)、灯油13.7万kl(対前週38.2%増)、軽油62.0万kl(対前週10.4%減)、A重油15.9万kl(対前週16.9%減)、C重油26.9万kl(対前週11.0%

増)。

(単位:千KL)

	今週 (9/18 ~ 9/24)	前週 (9/11 ~ 9/17)	前週比
ガソリン	954	956	▼ -2 (-0%)
ジェット燃料	100	157	▼ -57 (-36%)
灯油	137	99	▲ 38 (38%)
軽油	620	692	▼ -72 (-10%)
A重油	159	192	▼ -33 (-17%)
C重油	269	243	▲ 26 (11%)
合計	2,239	2,339	▼ -100 (-4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月24日時点の在庫は灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは160.8万kl、前週差9.6万kl減。前年に対しては7.0万kl少ない。

灯油は285.5万kl、前週差7.6万kl増。前年に対しては3.8万kl多い。

軽油は158.8万kl、前週差20.5万kl減。前年に対しては24.8万kl少ない。

A重油は72.3万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては5.8万kl少ない。

C重油は210.1万kl、前週差1.5万kl増。前年に対しては15.0万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (9/24)	前週 (9/17)	前週比
ガソリン	1,608	1,704	▼ -96 (-6%)
ジェット燃料	1,111	1,112	▼ -1 (-0%)
灯油	2,855	2,779	▲ 76 (3%)
軽油	1,588	1,793	▼ -205 (-11%)
A重油	723	730	▼ -7 (-1%)
C重油	2,101	2,086	▲ 15 (1%)
合計	9,986	10,204	▼ -218 (-2.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月20日から9月26日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは小幅な円高で、原油コストは小幅な値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン95円台、軽油38円台、灯油36円台でほぼ横ばいに推移した。海上スポット価格は、ガソリン95～96円台、軽油40～41円台、灯油33～35円台でやや弱含みだった。先物価格はガソリン93～94円台、軽油38円台、灯油37～39円台でほぼ横ばいである。元売の卸価格は据え置きだった。

EMGマーケティングは9月28日、10月1日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種一律2.0円引き上げる旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが小動きとなり卸価格も据え置きが続いたことから、製品スポット市況も、全般的に小幅な値動きで推移した。週間のガソリン販売量は、3週連続で100万klを下回った。

10月第1週(9月29日～10月5日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(9月20日～9月26日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.5円、灯油は0.4円、軽油は0.4円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.6円、灯油は1.0円、軽油は0.1円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが1.1円、軽油が0.5円の値下がり、灯油が0.1円の値上がりだった。原油コストがほぼ横ばいで推移し、製品スポット価格も小幅な値動きとなった。

10月第1週の大手元売の卸価格は、据え置きだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (9/20～9/26)	前週 (9/13～9/16)	前週比
スポット価格	レギュラー	41.8	42.3	▼ -0.5
	灯油	36.4	36.8	▼ -0.4
	軽油	38.2	38.6	▼ -0.4

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (9/20～9/26)	前週 (9/13～9/16)	前週比
先物価格	レギュラー	40.2	41.3	▼ -1.1
	灯油	38.9	38.8	▲ 0.1
	軽油	38.5	39.0	▼ -0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/20～9/26実績値)		(単位: 円/%)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -0.5	▼ -1.1	▼ -0.8	
灯油	▼ -0.4	▲ 0.1	▼ -0.1	
軽油	▼ -0.4	▼ -0.5	▼ -0.4	
A重油	▼ -0.3			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月26日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値下がりの122.8円、軽油は前週比0.1円値下がりの102.4円、灯油は前週比0.1円値下がりの63.8円だった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油は6週振りの値下がり、灯油も6週振りの値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは10県、横ばいは13府県、値下がりには24都道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の117.7円(前週比0.3円安)、次が群馬県の118.9円(前週比0.1円安)だった。最高値は長崎県の132.3円(同0.6円安)だった。都道府県別でも

値上がりしたのは、前週比0.5円高の奈良県(123.3円)と愛知県(121.5円)、最も値下がりしたのは前週比0.9円安の神奈川県(119.6円)だった。

原油コストは値下がりし、2週連続でガソリン小売価格は小幅ながら値下がりした。今週の元売会社の卸価格の大半は3週連続で据え置かれたが、原油価格はやや値下がり、為替レートもやや円高で、原油コストはわずかに値下がりとなったことから、次週の小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			直近高値	
		今週 (9/26)	前週 (9/20)	前週比		
小売価格	レギュラー	122.8	122.9	▼ -0.1	08/8/4	185.1
	灯油	63.8	63.9	▼ -0.1	08/8/11	132.1
	軽油	102.4	102.5	▼ -0.1	08/8/4	167.4

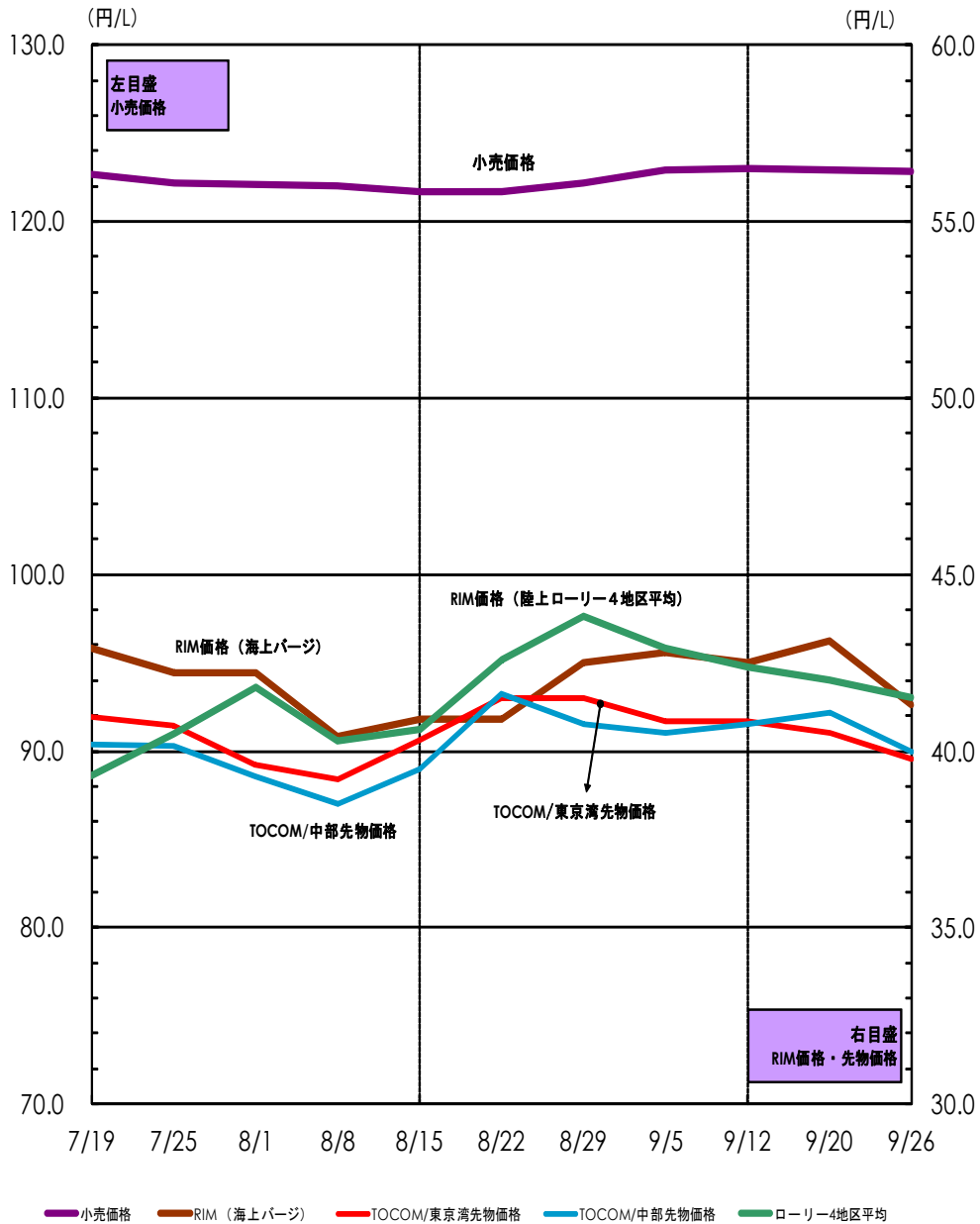
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/7/19 ~ 2016/9/26)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第26号)の公表は、10/7(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。